



JR岸辺駅南口

画・高宮良子

すいた **今昔** 岸辺駅は元々、国鉄職員専用駅でした。昨年からは北口も開業し、きれいな駅に生まれ変わっています。

CONTENTS

すいた市民しんぶん 新春座談会

市民福祉 子育て 教育 医療切り捨て
自分勝手な橋下維新流政治はもうゴメン

5

疑惑の太陽光パネル設置工事

2

百条委員会で真相究明を

モンゴルレポート 日米が狙う核廃棄物最終処分場

8

西谷 文和

カメラ点描 変わりゆく吹田

10

被災地のバスセンター①

高田バッティングセンター 吉岡 雅史

14

岩手県陸前高田市

いわみせいじのヨコシマ日記②

15

吹田溺愛主義③

山田川に愛を告げる 新山 ひろし 12

J R岸辺駅が開業したのは、1947年(昭和22)年4月のこと。元々は操車場で働く国鉄職員専用で、土を盛っただけの駅だった。駅名は「岸辺」で、周辺の地名「岸部」ではない。この地域は、元々「吉志部」と呼ばれていた。奈良時代、吉志という豪族が浪速の都に住んでいたが、その吉志一族につかえていた部民が住んでいたところ、として「吉志部」と呼ばれた。その由緒ある地名が、明治時代の町村制施行の際に簡略化されて「岸部」に変更されたのだ。

では駅名はなぜ「岸辺」なのか？ それは、1947年にこの駅が開業する際、当時の吹田市長(代理)が古地図を広げ、このあたりまで大阪湾が迫ってきていることを挙げ、「岸部」よりも「岸のほとり」という意味を込めて、「岸辺」と名付けたそうだ。

そんな「岸辺駅」も、今年で開業66年。北口がオープンして、橋上化した駅にはエスカレーター、エレベーターが完備。見事にバリアフリー化してリニューアルされた。今後もこの駅は町の発展を見守っていくだろう。